

Q4

水痘は軽い疾病なのでワクチン接種の必要はないと聞きますが、実際はどうでしょうか。

A

基本的には軽い疾患であるといえますが、重症化して入院する場合や、まれに死亡例が報告されてい

ます。年齢によって、重症化する頻度が異なりますが、米国の報告によると (Epidemiology and Prevention of Vaccine-Preventable Diseases The Pink Book: 10th Edition, (February 2007): <http://www.cdc.gov/vaccines/pubs/pinkbook/default.htm> より), 水痘による入院は水痘患者1,000人あたり 2～3人, 水痘による死亡は患者6万人あたり1人と報告されています。合併症を起こす頻度は健康小児では少ないものの0歳及び15歳以上では合併症の頻度ならびに致死率が高いとされます。1～14歳で水痘を発症した場合の致死率は水痘患者約10万人に1人ですが, 15～19歳では10万人あたり2.7人, 30～49歳では10万人あたり25.2人と報告されています。発疹が極めて多いものや, まれに肺炎, 細菌の二次感染, 肝炎, 脳炎を起こすこともあります。ワクチンの接種は発病や重症化のリスクを下げるだけでなく, 水痘にかかることによって, 本人が保育園や幼稚園や学校を休む, あるいはそれに伴って母親など保護者が仕事を休むことを防ぐといった意味あいがあります。これらを考えて最終的に接種の必要性を決めることになります。